

財政制度等審議会 財政投融资分科会

【議事要旨】

1. 日 時

令和元年11月12日（火） 9：57～11：58

2. 場 所

財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

3. 出席者（敬称略）

[委 員]

池尾和人、渡部賢一

[臨時委員]

土居文朗、富田俊基、富山和彦、原田喜美枝

[専門委員]

川村雄介、工藤禎子、家森信善

[財務省]

鍵水理財局次長ほか

4. 議 題

○令和2年度財政投融资計画の編成上の論点

5. 議事経過

（1）議題について、事務局より説明が行われた。

（2）委員からの主な意見等は以下のとおり。

○（株）国際協力銀行について

- ・大企業と中堅・中小企業と一緒に海外へ出ていくことが重要。中堅・中小企業の海外展開支援についてのJBICの取組状況を教えていただきたい。また、JICAやJETRO等との協調・連携の状況を教えていただきたい。
- ・本邦企業の海外展開支援は重要であり、リスクバッファの原資としてJBICに対する産投出資を行うことの必要性は理解するが、同時にリスクに見合うスプレッドをとる努力や、債権流動化によるバランスシートのスリム化といった努力も必要ではないか。
- ・特別業務は高いリスクをとる業務であり、少しずつ案件を積み上げればよいの

ではないか。特別業務の対象範囲に課題があるのであれば、対象を海外インフラに限定する必要はないのでないか。JBICが最初は一部のリスクをカバーするような枠組みがあれば、民間金融機関も特別業務の案件に参加しやすくなるのではないか。

○「官民ファンドの投資計画に対する進捗状況等」について

- ・A-FIVEは、投資額の実績が計画を下回っているほか、投資額に比べ経費も高く、きわめて問題。今後、投資を無理に拡大することを目指すのではなく、損失を最小限に抑えるよう、店じまいや他のファンドとの連携も検討すべき。
- ・A-FIVE以外の3ファンド（CJ機構、JOIN、JICT）は、投資額の実績が計画を上回った点は評価するが、既存案件への追加投資で実績が伸びているとすれば気になる。新規の案件組成が進まず、計画を達成するために既存案件への不要な追加出資を増やし、辻褃合わせを行うことがないようにしてほしい。
- ・累積損失を議論する際、投資額の外にIRRを見ることも重要。各ファンドは投資額を増やすだけでなく、個別案件のIRRをフォローし続ける必要。
- ・ファンド業務の収支については、設立当初は新規投資に伴う費用が嵩む一方、投資元本を回収するまでには数年は必要であるため、収支上の赤字が拡大するが、投資案件のExitが増えてくれば収支は改善する。この官民ファンドの一般的な収益構造について、国民やマスコミになかなか理解されておらず、結局は「累積損失を計上している官民ファンドは、税金の無駄遣い」と受けとめられているように思う。国民やマスコミの適切な理解を得られるよう、政府一体となって、しっかりと説明を尽くすことが大切。

連絡・問い合わせ先
財務省理財局財政投融资総括課調査係
電話 代表 03(3581)4111 内線2578

(注) 本議事要旨は、今後字句等の修正があり得ることを念のため申し添えます。